

看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を
実践している現場での奮闘ぶりや、看護に
対する熱い思いをシリーズで紹介します。

在宅を支える 訪問看護師の役割とは

訪問看護ステーション つばさ
藤田 絵里子さん



■ 訪問看護ステーションつばさについて

訪問看護つばさは、看護師13名、事務員2名、リハビリスタッフ4名で運営されています。「長年住み慣れた地域や我が家で家族とともに暮らしたい」これは健康な人以上に看護や介護が必要な方々にとって切実な願いです。訪問看護つばさではそうした自宅での安定した療養生活を支援するために看護師等がお伺いして療養のご相談やお手伝いをしたり主治医の指示、連携のもとに医療的な処置を行なっています。

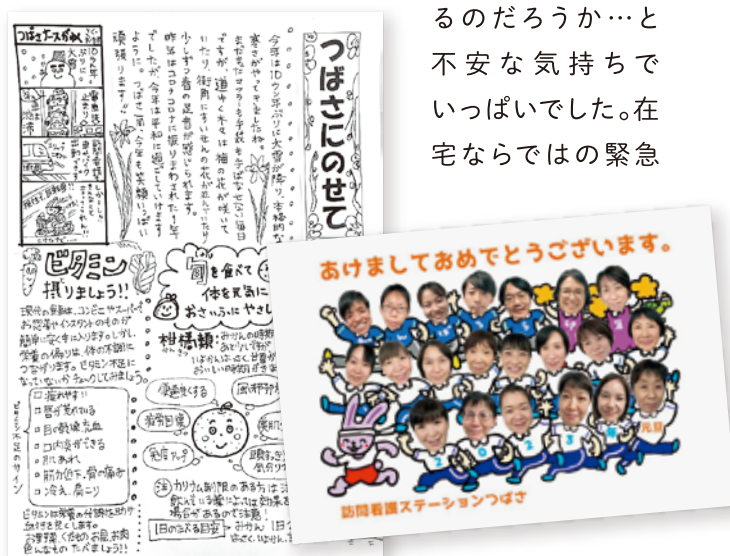
■ 訪問看護師の仕事について

私は看護師3年目の時に病棟から訪問看護に配属されました。初めは、知識も浅く経験も少ない私に務まるのだろうか…と不安な気持ちでいっぱいでした。在宅ならではの緊急

コールの対応、自宅での看取り、限られた環境の中での医療処置やケアなど初めてのことがばかりで戸惑うことも多くありました。慣れない業務の中、先輩方に支えられながら利用者様との信頼関係を築いていくうちにだんだんと不安が楽しさに変わり、今では訪問看護の仕事が大好きになりました。訪問看護では利用者様一人ひとりとじっくり向き合えるところが魅力の一つだと感じています。利用者様の「こう生きたい、こんな生活をしたい」という意思を最大限に尊重できることや、病気のことだけではなくその人の生活する場や今までの生活歴を知り深く関われるところも、訪問看護の醍醐味ではないかと思います。利用者様の笑顔や「ありがとう」「また来てくれる？」の言葉は私の元気の源になっています。

もちろん、楽しいことばかりではなく1人で訪問するという緊張感は今でもあります。

訪問中に判断に困った時にはその場で他のスタッフに電話をかけ相談したり、異常を感じた時にはかかりつけの病院の医師、看護師、地域連携室に連絡を取り指示を仰ぐこともあります。急変時には救急要請をすることも多く、観察力や判断力が重要となります。また、生活のことで困っていればケアマネージャーに相談したり、生活環境やADLのことはリハビリスタッフにアドバイスをもらうなど、様々な多職種と連携を取り利用者様の生活を支えています。やりがいを感じる中でもまだまだ不安な場面も多く判断に困ることもありますが、心強い先輩方やサポートして下さる他職種の方々に助けられ日々奮闘中です。



定期的に新聞を発行したり、毎年利用者様に年賀状を出しています。
イラストが得意なつばさスタッフのお手製です！



訪問時の様子

■ 在宅での看取りの支援

訪問看護に携わる中でご家族様との関わりも重要となります。困っていることの相談を受けたり、ケアの指導やご本人が安全に自宅療養を送るためのアドバイスを行うなど様々です。「住み慣れた家で最期を迎えたい」と願う方も多く、訪問看護では在宅での看取りの支援も行います。一般的な看取りの流れとして、まず医師が終末期である利用者とその家族に在宅での看取りについて状況説明を行い意思を確認します。訪問時には苦痛の緩和や日常生活の援助、家族に対するケアを行い、心身共に支援します。そして最期の時、ステーションによって対応は様々ですが、訪問看護つばさでは緊急コールで看護師に連絡を入れて頂くようにしています。ご家族様から連絡が入るとすぐに駆け付け、亡くなられたことを確認してから往診医へ報告します。その間ご家族様には状況をしっかりと伝え、その後の対応の説明を行い、希望があればエンゼルケアを行います。一緒にケアをしながらご家族様の悲しみを受け入れ、ご本人様が最期まで頑張ったこと、支えていたご家族様も今まで頑張ってきたことなどお声がけをします。看取りの後、しばらくして落ち着いた頃にお悔みの訪問でお線香をあげに行かせて頂くこともあります。「ここにあったベッドがなくなって、部屋が広く感じる」と涙を浮かべる方や「家で看取れてよかった」と笑顔で話される方、ご家族様の受け入れも様々です。弔問の際には訪問していた時の出来事や、最期を迎えた時のこと、生前のご本人様の思い出話を傾聴しながらご家族様の気持ちに寄り添います。訪問看護

の現場においてもグリーフケアは看護師の重要な役割であると感じています。

■ 子育てとの両立

訪問看護に異動後、結婚・出産を経て、現在は二児の母になり子育てと両立して働いています。1歳と3歳、とても手がかかる時期で、毎朝の出勤準備や帰宅後のお世話も一苦労です。仕事と子育ての両立は大変ですが、仕事をする中で利用者様からの



ママのお迎えに笑顔のこひろちゃん

「ありがとう」の言葉に元気をもらったり、職場のスタッフ同士の和気藹々とした会話が気分転換になっています。利用者様からも「お子さんは元気？育児大変でしょう？」とお声をかけて頂くこともあり、世代を超えた子育てトークは訪問時の楽しみのひとつでもあります。

訪問看護にはたくさんのやりがいや魅力があります。これから実習へいく学生さんには在宅看護実習を通して看護の楽しさを感じてもらえたら嬉しいです。